

# SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール  
岩手県立水沢高等学校  
第13号 2019年1月22日 発行

## コミュニケーション講座「話す技術・伝える技術」実施

2年生を対象にコミュニケーション講座を1月15日に実施しました。講師の大高智佳子さん(NEXT-STAGE)は、IBC 岩手放送のアナウンサーを経て、現在はフリーのアナウンサーや司会、そして社会人ビジネスマナー等の研修講師として活躍している話すことのスペシャリストです。今年度から2年生全員が課題研究に取り組んでおり、4月からの成果をまとめ、1月18日の課題研究発表会では指導助言者をはじめ、1年生や教員、来校者の前で発表します。普通科はポスター発表、理数科は口頭発表と形式は異なりますが、何れも相手に自分達の研究を伝えることが大切です。どんなに素晴らしい研究をしても、その研究内容を聴衆に上手く伝えられなければ、素晴らしい研究とは認めてもらえません。物事を相手に分かりやすく伝えることは、どの分野で活躍するためにも重要なスキルです。「話す技術・伝える技術」を身につけることは、これからの人生の大きな財産になります。

講座の前半では、発声やイントネーション、スピード、マイクの使い方等の話す技術、「伝えた」の一方ではなく「伝わった」の双方向にするための伝える技術を学びました。後半では、理数科が口頭発表の演習を行いました。大高先生のアドバイスを受け、指摘された点を直そうとする姿が見られ、成長が感じられました。

課題研究発表会では、今回の講演が生かされ「伝わった」発表になることを期待しています。



講師の大高智佳子先生



発表演習を行い、生徒間や大高先生の助言から学びました

- 明るく話すだけで、人の印象がよくなることや話の内容を聞き手になることなどいい面がたくさんあることを知った。発表では接続語を巧みに使って聞き手に合わせた発表ができれば良いと思った。一方的な発表に終わらず、聞き手の間や声のトーンを意識していきたい、発音は普段と少し意識を変えるだけで、アナウンサー気分になれるので実践していきたいと感じた。実りの多い講演であった。
- プレゼンテーションについて学ぶことの多い講演会だった。特に印象に残ったお話は2つだ。1つは相手に物事を伝える際、ア段のアクセントや言葉の最初の音に意識して話すと、より聞きやすく、話に興味を持ちやすくなるということだ。2つめは、PREP法というものだ。最初にポイントを伝え、理由を述べ、具体的な例を出し再びポイントを繰り返すという方法は聞き手にとって理解しやすい方法だと学んだ。実際の発表でもこれらを意識して良い発表をしたい。
- 今回の講演会を受けるまで話し方に気をつけたことはなかったので、課題研究や面接を考える上で良いタイミングで受けられて良かった。私は日常的に口を開けずに話しているような気がするので、これからは常に口を開けて話すようにし、「相手に伝える」ことを意識したいと思う。今月は人の前で話す機会がいつもより多いので、今回理解したことを生かして発表しようと思う。
- 人前で話すことに対しての苦手意識を強く持っているので、今回の講演はすごくためになった。しかし、練習を重ねない限りは講演を聴いても意味が無いので、本番に向けてこれまで以上に入念に練習していきたいと思う。